

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第37回 『「謙虚で、常に前に向かって」～『今日の花に水をあげなさい』～』

オンラインで2020年10月24日開催された『第3回 日本メディカルヴィレッジ学会』（第3回 日本メディカルヴィレッジ学会 in 八女- YouTube）（みどりの杜病院:完全独立型ホスピス緩和ケア病院、福岡県八女市に於いて）の講演集が送られてきた。「当院のウェブサイトでも閲覧（ダウンロード）できるようにしました（<http://www.yame-midori.jp/mv/mv2020.html>）。」とのことである。大会長の原口勝先生（みどりの杜病院 病院長）をはじめ「みどりの杜病院」のスタッフの皆様の「謙虚で、常に前に向かって 努力されている姿」の真摯な文章には、ただただ感服した。筆者は、本学会の理事長として特別講演『病気であっても病人ではない』の機会が与えられた。今回は、『他人の苦痛に対する思いやり』は、医療の根本であり、患者の視点に立った医療が求められる現代において立場を超えて集う貴重な「交流」の場ともなった。

『日本メディカルヴィレッジ学会』は、病を抱えた患者や そのご家族が、最期まで 安心して暮らすことの出来る場所を地域に創り出すことを目的として設立された。人類の進むべき「医療の協働体」のモデルになる予感がする。昨日、看護婦でもあり『がん哲学外来さいわいカフェ』代表:海老澤規子 氏から、クリスマスカードとニュースレターが送られてきた（画像）。筆者の『日めくり 人生を変える言葉の処方箋』（いのちのことば社 発行）と『明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい』（幻冬舎 発行）からの言葉が、引用されていた。今年の、良きクリスマスプレゼントとなった。大いに感激した。



沈黙も
「わからない」も愛

出典「日めくり 人生を変える言葉の処方箋」樋野興夫24

画像 1



器を空っぽにすると
新しい水が満たされる

出典「日めくり 人生を変える言葉の処方箋」樋野興夫25

画像 2

★樋野興夫先生の言葉の処方箋★

生ける魚は水流に逆らう

生きていれば、つらいことや、嫌なことの二つは誰だってあります。私にだって恐れる日や落ち込む日があります。

それが人生というものです。

内村鑑三は次のような言葉を残しています。

「生ける魚は水流に逆らって泳ぎ、死せる魚は水流とともに流れる」 ……

私たち人間は、苦痛がないと品性が出てこないし、苦痛がないと希望も出てこない。いまいる場所から一歩踏み出して、自分から希望を探しに行かないといけない。受身のままではダメ。待っているのはダメ。意識的に探さないといけない。

自分の役割や使命を見つけるとはそういうものです。積極的に取りに行った者にだけ生きがいとは与えられます。

生きていれば
必ずつらいことにあたる。
それが人生。



苦痛の中にいるからこそ、
品性は出てくる。

出典「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」
幻冬舎 樋野興夫 順天堂大学名誉教授

● 第25回さいわいカフェ報告 11/28 ●

落ち葉の色づく土曜日の午後、11月のさいわいカフェを開催しました。テーブルにはかわいいランタナの花がやさしい香りを放ち、久しぶりに会えた方々との、笑顔のひとときにほっこりと心が和みました。

テキストからは、「問題は解決できなくても、解消できさえすればいい。」との言葉の処方箋を受け取り、3テーブルに分かれ、ゆっくりとお互いにお話の時間をもちました。

近くに住んでいても、なかなか会って話す機会が減ってしまった2020年。毎回歌う「きみは愛されるため生まれた」を歌いながら、お互いがお互いのために存在していることを、ただただ感謝だなあ〜と感じました。筑西市産の柿の実や風船カズラの種をお土産に、秋の思い出の1ページとなりました。



2020年 メリークリスマス！！

コロナ禍の中、安心・安全な場を求めてみなさまと共に「言葉の処方箋」に支えられながら、さいわいカフェを開催できました。ご支援ご協力に感謝致します。

新しい年も、不安な中にある方々のほっとできる寄り添い合える場所となれますようにと願っています。

みなさまの健康や日常が守られますように☆彡
次回は、1月17日(日)に予定しています。
変更となる場合もありますのでお問合せ下さい。



あなたは そこにいるだけで
価値ある存在

出典「日めくり人生を変える言葉の処方箋」

【「チャウチャウの詩」】
困っチャウ
不安になっチャウ
状況もチャウ
チャウチャウ歩み
チャウチャウ宴会
つぶやいて♪
チャウチャウの詩
募集中

